

日本大学工学部

校友会報

第 53 号

平成2年2月1日

目 次

日本大学100周年記念	2 ~ 3
ごあいさつ(工学部長、校友会長)	4
平成元年度第32回通常総会報告	5 ~ 6
第9回母校を訪ねる会報告	7 ~ 9
校友放談(今村 伸)	10 ~ 12
校友エッセイ(半沢 恵、河井宏文)	13 ~ 14
若葉マークがんばり記(長坂恵伸)	15
キャンパスミニメモ	19
事務局便り	20



日本大学創立100周年記念式典

平成元年10月4日

高輪プリンスホテル

約1,000名が出席

日本大学創立100周年記念式典

天皇・皇后両陛下をお迎えして行われる

日本大学は明治22年(1889年)当時の司法大臣山田顕義伯爵が「日本法律学校」として創立されたのが始まりである。それからちょうど100年に当る平成元年(1989年)10月4日、天皇陛下、皇后陛下のご臨席を過ぎ、東京・高輪プリンスホテルで、創立100周年記念式典が執り行われた。

記念式典には、高梨公之総長を始め、内閣総理大臣代理の石橋一弥文部大臣など、各界の代表、本学役教職員・学生・生徒の代表など約1,000人が出席した。工学部校友会からは、武田仁幸会長、松山光克理事(日本大学評議員)の2名が出席し、学部代表の5名の学生も出席した。席上、別掲の天皇陛下のお言葉もあり、出席者一同、次の200周年へ向けて、心を新たに前進することを誓った。

天皇陛下お言葉

日本大学が創立100周年を迎えるに当たり、皆さんと共に、その記念式典に臨むことは、誠に喜ばしいことあります。

日本大学が日本法律学校として設立された明治22年は、我が国において初めて憲法が発布された年に当たり、法体系の整備、運用に関連する教育の緊要性は、極めて高いものがあったと思われます。以来今日まで、日本大学が、我が国社会の各分野において、国の発展と国民の幸福に寄与する幾多の人々を育ててきたことは、深く多とするところであります。

大学は、今日の社会の要請にこたえるとともに、未来をも目指した教育、研究の場として、重大な使命を担っています。国際社会の一員としての我が国の役割が一層重要性を増してきている現在、国内はもとより、広く世界の様々な分野において、人類社会に貢献する人々が、ますます多くこの大学から送り出されることを切望します。

日本大学が、100年の歴史の上に新たな一步を踏み出すこのとき、その将来の一層の発展に期待して、お祝いの言葉をいたします。

このあと、新高輪プリンスホテルで記念祝賀会が開催され、高梨総長、文部大臣代理の町村信孝文部政務



次官を始め、約3,000人が出席、終始盛會裏に進行し、一連の記念行事が終了した。

この記念祝賀会には、本会から武田・松山両氏のほか、理事4名も出席し、日本大学の校友の一員であることを改めて認識し、多くの感動を得た。

100周年記念の主な記念事業・行事

△本部関係

記念式典・祝賀会

日本大学100年史(全5巻)及び山田伯爵家文書(全16巻)の編纂刊行

日本大学創立100周年記念国際会館の建設

学術情報センター(仮称)の建設

総合グラウンドの建設

山田顕義終焉之地記念碑の建立(兵庫県生野町)及び墓所の整備(東京・護国寺)

日本大学展の開催(小田急百貨店)

学術講演・国際シンポジウムの開催

記録映画製作と日本大学100年(記念誌)の発行

△工学部関係

Fractional Calculus 第3回国際会議の開催

奨学・研究基金の設定

△東北高校関係

合宿研修所の建設

日本大学創立100周年記念式典にのぞんで

郡山市水道局長 松 山 光 克

記念行事が平成元年に実施されたことは意義深いことであります。私共校友もこのような機会は二度とないことであり記念式典に出席できましたことを誇りとし、光榮に存じております。式典には天皇皇后両陛下のご臨席をいただき賤衆のなかに日本大学カラーに包まれた式典が執り行われました。海外学術交流提携校代表であるワシントン州立大学総長はじめ日本私立大学連盟会長早稲田大学総長並びに国関係者等の出席があり、まさに総合大学の雄がありました。今日の隆盛ある本学の姿は先人の築きあげた100年の足跡であり改めて深甚なる敬意を表すものであります。これから21世紀にむけて大学関係者は勿論、校友も国際色豊かな時代に変貌しつつあるとき、関係者一同一丸となって気をゆるめることなくそれぞれの立場で責務を全うすべきである。昔に比較し高等教育を自由に選択できる時代である。本学も他大学に負けずに創意工夫の必要があり



ましよう。総長先生のお話のなかに、「過去を踏まえて将来を考える、それが現実的な未来像である。100周年は良い機会である。」これを節目に建学の精神を現代に生かしてすむことを校友の一人として切望いたします。

(本会理事・日本大学評議員)

工学部としての記念行事 テレビ放映・講演会

日大創立100周年記念行事としては、本部関係と工学部関係（2ページ参照）がありますが、工学部ではそれ以外にも特別な行事を企画し、実行した。

平成元年10月1日、福島中央テレビから、特別番組として「日本大学100年」が正午から1時間にわたって放映された。番組は座談会と写真による形式でつくられ、座談会には、齊藤恒雄常務理事、本郷忠敬工学部長、津野喜七郡山商工会議所会頭（日大経済学部卒）、



武田仁蔵工学部校友会長が出席し、日本大学、とりわけ工学部の過去・現在・未来についての話し合いが行われた。このテレビ放映には工学部校友会としても協賛した。

平成元年10月2日、記念講演会が工学部中講堂で行われた。講演者は作家の早乙女貢氏で「明治維新と山田顕義」の演題で約2時間熱演された。早乙女氏は吉



川英治文学賞を受賞された作家で、豊富な学識と歴史に対する見識を披露され、聴講の教職員・学生・一般市民に大きな感銘を与えた。

ちなみに、早乙女貢著「志士の肖像」上・下巻が東京新聞出版局から発行され、山田顕義を中心とした幕末維新秘話が述べられている。



ごあいさつ

日本大学工学部長

本郷忠敬

工学部校友会は、昭和33年に発足して以来、幾多の困難を乗り越えて、常に学部と一体になって活動し、校友3万人の心のふるさととして立派に成長発展してこられたことは、各学部の校友会の模範であり、校友各位とともに嬉しい申しあげます。

私学においては、特に母校と校友との緊密な連繋・協調が必要です。母校の発展は校友の社会的活躍に負うところが非常に大きく、校友の皆様のご協力がなければなりません。一方母校の名声は校友の方々の社会における活躍の原動力になっています。

最近の急速な技術革新の要請にこたえるため、工学部は、いま優れた教授陣と充実した近代的な教育研究設備を備え、時代を先取りして、大学院を中心としての教育・研究の向上に意欲を燃やしています。また郡山地域テクノポリスの指定を契機に、開かれた大学として社会のニーズにこたえて、今まで蓄積してきた研究の成果を社会に有効に還元して、独創的な研究開発に積極的に協力しています。

昨年は、日本大学創立100周年の意義ある年を迎え、創立記念日には天皇・皇后両陛下をお迎えして盛大に記念式典を行い、また学祖山田顕義の顕彰をはじめ数々の行事を行い、この100周年を大学史上の大きな節目として、建学の精神にのっとり、全学の英知を結集して、さらに飛翔すべく決意を新たにしました。さらに今後、大学史編纂・国際記念会館、学術情報センター及び総合グランドの建設など盛りたくさん記念の事業が計画され着々と進められています。工学部の記念行事としては、数学関係の国際会議の開催、福島中央テレビによる記念特別番組「日本大学100年」の放映、作家早乙女貢先生の記念講演会「明治維新と山田顕義」などを行い、また奨学・研究基金の増額を設定して、なおいっそう奨学生制度や研究助成それに研究設備の充実を図る計画を立て、ご協力をお願い致しています。

次に、校友の皆様の学生時代からなじみになっていた管理棟が以前から手狭で、永い間教職員・学生・外來者などに多くの迷惑をかけてきました。そこで、管理棟としての役割を果たし、事務の円滑化を図るために、また対外的な影響も考慮して、将来を見透しての全体計画や建物の老朽化と構造上の問題などから検討した結果、建直しに踏み切ることにしました。現在、管理棟建設実行委員会を通して教職員の意見を広く反映しながら、基本設計の段階に入っています。基本設計はおおむね元年度内に完了の予定です。新年度後半には着工の運びになると思います。教職員並びに関係者一同の大きな期待と注目を集めている新しい管理棟です。きっと本学部の管理棟にふさわしい風格のある建物に変貌するものと期待しています。

終りに、校友の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念してあいさつとします。



ごあいさつ

日本大学工学部校友会会长

武田仁幸

会員の皆様には、益々のご健勝を心からお慶び申し上げます。平成元年10月4日をもって、我が日本大学は、創立100周年を迎えました。この記念式典は、高輪プリンスホテルにおいて、天皇・皇后両陛下はじめ大学関係者や校友会関係者など、多数の方々のご臨席のもとに盛大に催されました。工学部校友会からは、松山本部評議員と私が出席いたしました。引続き同ホテルで行なわれた祝賀会には本会から理事の皆さんも出席され、誠に感動的な、意義深い一日であった。

本部校友会では、この機に『日本大学百年の歩みと校友会活動』のタイトルで、記念誌を編集した。これは非売品のため多くの校友の方々の手元に届けられないのは残念であるが、この中に、我々にとって大変興味深い一文がある。

要約すると、「学祖山田顕義の急逝と日本法律学校の危機」明治22年創立以来、第一回目の卒業生を輩出(明治26年7月16日卒業式)しようとしている6月に経営資金の調達にめぼしがつかないと言う理由により、廃校もやむをえずという結論となり、校長の辞任、卒業証書は幹事であった宮崎氏から授与されたと記されている。卒業式の当日、講師・卒業生の有志十数人が麁町九段坂上の富士見軒で祝宴を開催し、その席上、母校発展の献策をして衰退傾向にある校勢挽回をはからうと決議し散会する。卒業生の川島・松村の両氏が長森幹事に学校発展の意見を述べたのである。長森氏は廃校は6月に決議してあるが諸君の運動如何によっては何となるだろうと意外な話を切り出され、二人は驚いて卒業生の有志に連絡をとり、評議員や講師を訪問、学校再建運動を展開した。その結果学校再興と第二代目松岡康毅校長を迎える。明治26年12月23日学校存続の日途がついたのを祝って、卒業生・講師・在校生の有志が江東の中村橋に集まり、合同懇親会と松岡校長の就任祝賀会を兼ねた祝宴を催したのである。この席で先人達は今後とも母校の発展の為に團結協力することを誓い、校友会の設立となる。これ以後においても幾度かの存亡の危機があったが、そのたびに教職員・卒業生・在学生の三者一体の活動によって危機を乗り越え、現在の日本大学があり、良き伝統となっている。

さて、日本大学には現在14学部があり学生総数8.3万余名、教職員数7.7千余名である。他に附属高校などがあります。更に誇らしいことは、国名を冠に、国花を徽章にする母校の100周年を慶ぶ、65万余名の校友が、日本全国で、いや世界各国で活躍している 것입니다。100周年を一つの節目として、母校の限りない発展と各位のご健康を希い、ごあいさつといたします。

平成元年度 第32回通常総会報告

昭和から平成へと新しい時代への転換期と、今年10月日本大学は創立100周年を迎える記念すべきこの年に、平成元年度第32回通常総会を東京・市ヶ谷にある日本大学会館、大講堂に於いて4月22日(土)午後2時より、遠路九州、北海道を始め全国各地から会員多数出席のもとに盛大に開催されました。

想えば、3年前倉田、広川、外木三先生の謝恩会を開催したのもこの会場で、3年ぶりの東京開催であった。



さて、標記総会は、半沢副会長の開会のことばで始まり、次いで武田会長より東京開催の意識について、郡山市は市長選挙前であること、新らしい時代になったのを機会に新予算書となったこと、100周年記念に関する寄付要請についてのお願いについて、会報発行についての考え方について、等、本日出席された方々に対する感謝の意を含んで挨拶がありました。次いで議長に、根本亮(上3回)氏を選出し、ご挨拶の後、議事録署名人に福井均(上19回)、小野信太郎(上29回)、書記に加藤木研(電12回)、野尻大五郎(化16回)、の各氏を選び、議事に入る。

議事は、報告第1号 昭和63年度会務報告について
承認第1号 昭和63年度一般会計収支決算について

承認第2号 昭和63年度特別会計収支決算について

議案第1号 平成元年度事業計画について
議案第2号 平成元年度一般会計収支予算について

議案第3号 平成元年度特別会計収支予算について

これら議事にかかる結果は次のとおりであります。

報告第1号は村田事業部長(上12回)より会員の状況、会務の状況、財産の状況について説明報告があり、協議の結果、異議もなく承認された。

承認第1号、第2号は、木村経理部長(建3回)より一括して提案説明があり、次いで会計監査員3名を代表して佐々木崇(上3回)氏が監査の結果、適正であった

と報告があり、協議の結果特に質疑もなく承認された。

議案第1号は村田事業部長が提案説明を行ない、①会報発行を年1回とする。②100周年記念事業として350万円を寄付する。③就職促進の施策として工学部父母会と協力し資料の電算化を考える等、特に従来の事業と異なる点の説明があり、協議の結果異議なく承認された。

議案第2号、第3号は木村経理部長より一括提案説明あり。協議の結果、早川一胤(上14回)氏が会報の発行は1回となるのかとの質問があり、武田会長より経費がかかり、現在の予算では年2回の発行はムリになってきていることを説明する。会員各位のご理解を戴きたいと回答する。その他質疑なく、承認された。



以上で議事の審議は終ったが、その他として、①100周年記念寄付金の募金お願いのこと、②各支部より支部活動報告が次の順序で報告されました。東京支部・吉村支部長、東海支部・平野支部長、北海道支部・松山支部長、九州支部・矢俣支部長、更に地方支会会長、千葉アカシア会・根本亮会長、支部・支会とも会員相互の親睦を図っている様子を伺うことができた。③新らしく事務職員となった田中孝さんの紹介がありました。最後に佐藤副会長の閉会の辞で総会を終了した。

引続き懇親会に移り、特に来賓としてご出席をいただいた副総長木下茂徳先生(理工学部長)、工学部長木郷忠敬先生よりご祝辞を戴き、工学部事務局長菊地四郎先生の音頭で乾杯し、祝宴に入った。



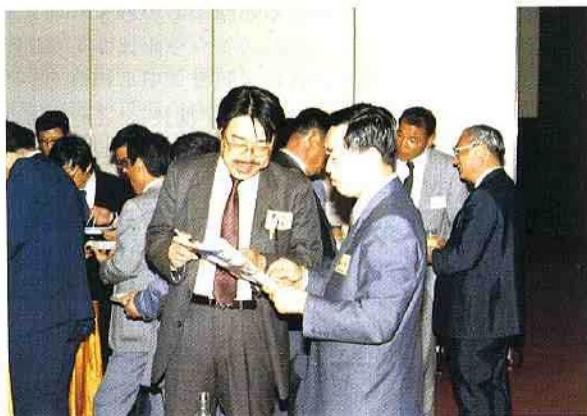
例年ない暖冬で早咲きとなった桜は、すっかり葉桜となってしまっていたが、祝宴は、中央に当会館のコックさんが腕によりをかけた、美味しい料理が並んでおりをちりばめた様に盛りつけられたテーブルを開んでの立食パーティーで開催された。

3年ぶりにお会いした顔を見合せ、ちょっとと白髪が増えたね、肥ったね、今度転勤したんだね、奥さん元気、子供さんは進学、就職、最近母校へ行ったよ、変わったね、定年になり他の会社へ移ったよ。等、年輪



をおもわせるものがあった。先生お元気ですかとビールを片手に近況報告。いつになく盛大な宴となった。

なんといっても最大の話題は、昭和から平成へ時代が変わったことで、90年代の経済の動きが気になるところである。人手不足による倒産が深刻化する中、母校へ求人依頼に行くが、好景気の為、学生の就職率は100%、先輩のいるところに就職してほしいと懇願、母校はうれしい悲鳴。終始今日迄の無事を喜び、社会での先輩、後輩の活躍を知り、心踊りながら昔し話に花を咲かせ、明日へのエネルギーを蓄えることができた。平成2年度総会（郡山）で再会することを約し、散会する。



昭和63年度一般会計収支決算書

歳 入

款項	種 目	予 算 額	決 算 額	単位 円	
				比較増減	附 記
1 会 費	純 身 公 費	10,000	0	△ 10,000	
2 入 会 金	10,000	0	△ 10,000		
	計	20,000	0	△ 20,000	
3 前 年 度 溢 基 金	25,018,033	25,018,033	0		
	計	25,018,033	25,018,033	0	
4 基本財産上の繰入金	3,552,855	3,552,855	0		
	計	3,552,855	3,552,855	0	
5 雇 金 料 子	300,000	284,778	△ 15,222		
6 雇 員 負 担 金	300,000	331,794	△ 31,794		
7 名 稽 代 金	30,000	203,500	△ 173,500		
8 雑 収 入	9,112	1,130,000	△ 1,920,888		
	計	639,112	2,750,000	△ 2,110,888	
合 计		29,230,000	31,320,960	△ 2,090,960	予算比 107.1%

歳 出

款項	種 目	予 算 額	決 算 額	予算見通	成 算 額	比較増減	附 記
				△	△	△	△
事	1 給 料 手 当	4,130,000	0	4,130,000	3,761,054	△ 378,946	
	2 保 険 料	466,000	67,751	527,751	527,751	0	予算費より
	3 交 通 費	520,000	0	520,000	485,000	△ 35,000	
	4 食 費	110,000	0	110,000	74,160	△ 35,840	
務	5 交 構 費	400,000	141,610	541,160	541,160	0	予算費より
	6 消 耗 品 費	90,000	0	90,000	83,944	△ 6,056	
	7 書 品 費	140,000	0	140,000	133,000	△ 7,000	
	8 印 刷 料 本 費	90,000	0	90,000	222,700	△ 61,700	予算費より
	9 郵 便 通 用 費	280,000	0	280,000	190,020	△ 99,980	
	10 旅 構 雇 用 費	10,000	0	10,000	4,660	△ 5,330	
	11 光 热 水 費	40,000	0	40,000	30,000	△ 10,000	
	12 雑 費	150,000	0	150,000	132,370	△ 29,630	
	計	6,520,000	300,361	6,820,361	6,184,439	△ 704,922	(予算決算比 93.2%)
事	13 社 會 对 策 費	500,000	0	500,000	500,000	0	
	14 会 員 会 員 費	5,920,000	0	5,920,000	4,297,200	△ 1,621,700	
	15 会 員 管 理 費	1,920,000	0	1,920,000	1,695,250	△ 224,750	
	16 名 藩 作 成 費	130,000	0	130,000	420,172	△ 290,172	
	17 下 宿 对 策 費	10,000	0	10,000	5,692	△ 4,308	
	18 図 書 供 与 費	500,300	0	500,300	500,300	0	
	19 式 賞 費	1,900,500	0	1,900,000	1,913,480	△ 13,520	
	20 同 様 評 価 費	300,000	0	300,000	215,816	△ 84,184	
	21 貸 用 費	850,000	0	850,000	854,500	0	
	22 修 費	420,000	0	420,000	376,360	△ 44,320	83.5%
	計	12,910,000	0	12,910,000	14,366,054	△ 2,156,004	
会	23 会 金 費	450,308	0	450,308	426,090	△ 24,328	
	24 役 員 会 費	400,000	0	400,000	389,960	△ 10,039	
	25 連 格 座 旗 費	400,000	0	400,000	414,160	△ 14,160	
	26 旗 費	1,910,000	0	1,910,000	956,730	△ 41,770	
	計	2,340,000	0	2,340,000	3,801,660	△ 242,660	80.7%
業	27 職 員 退 職 給 与 積 立 金 特別会計 職 員 会	200,000	0	200,000	237,030	△ 37,030	
	計	200,000	0	200,000	237,030	△ 37,030	91.1%
積	28 積 立 金	6,000,000	0	6,000,000	6,020,000	0	
	計	6,000,000	0	6,000,000	6,020,000	0	
予	29 予 備 費	1,200,000	△ 300,361	800,639	0	800,369	
預	計	1,200,000	△ 300,361	800,639	0	800,369	
	合 计	38,230,000	0	29,230,000	25,339,460	△ 3,990,510	85.3%

歳 入 総 31,320,960円
歳 出 総 26,230,467円
差引残額 6,081,473円を翌年度へ繰越すものとする。

財産の状況 (平成元年3月31日現在)

一 般 会 計	引 当 財 産	運 用 財 産	合 計
5,084,473 円	2,249,536 円	12,881,718 円	21,212,727 円

年ごとに盛況な “母校を訪ねる会”



十年一昔、と申しますが、工学部を卒業されてから二昔ほどの時間が過ぎてみれば、かつての若き獅子達も、わが子の姿の中に、去っていった自分の青春時代の姿を見ていることあります。



また、社会の中で、夢中に生きてきた20年ではなかつたでしょうか。

ふと、振り返ってみて、母校工学部に行ってみたい、という想いが募るのも、今日このごろではないでしょうか。

工学部と校友会との共催で、「母校を訪ねる会」を開催するのは、勿論、工学部の充実された現状を観て戴くことにあるわけですが、加えて、皆さん、この熱

い母校への想いを、お受けするためでもあります。

会期は、学部祭（現在は北桜祭と呼んでいる）中の日曜日を選ぶため、授業を妨げることなく、研究室を訪ねて、研究内容の説明を聞いたり、また懐かしい先生方との、再会を悦び合ったり、一刻を惜しんで昔話に興じるなど、キャンパスからは、革やかな雰囲気と共に、自信に満ちた力強い膨動が伝わってきます。更に、繰り広げられる各種のイベントを通して、現代の若者の、気質や有様を見聞することができますし、日程は都合が良いようです。

昭和56年度に第1回目を開催してから、本年度で、第9回目の催しとなりましたが、この間にご出席され



た校友は、累計で669名、年ごとに増加の一途をたどっています。

原則として、卒業後20年目の卒業生を、ご招待の対象としておりますが、これにこだわることなく、どの年度の卒業生であっても、また校友のどんなグループであっても、更に加えるなら、ご家族同伴で、ご出席なされても、大いに結構です。

平成元年度は、10月22日㈰に行ないましたが、その前日に郡山市内のホテルで、各科の第17回卒業生同級会を開いたことが、大変好評であったようです。

平成2年度は、母校を訪ねる会も、第10回目となりますので、より多くの方々が、ご来訪されるよう、心

“アカシヤ土木 17”を結成

会長 大内 幹夫

昭和43年度（土木17回）卒業生の同級会は「母校を訪ねる会」の前日にあたる平成元年10月21日㈯に郡山市中町の郡山国際ホテルで25名の参加のもと大変、盛況に行われました。

何分にも卒業以来初めてと言うこともあり顔と名前が一致しないこともあります、皆爆笑の連続であった。

杉内先生と校友会から松山理事を来賓として迎えそれぞれ激励の言葉を頂戴し改めて感激をいたし、また当時の懐しい思い出ばなしが印象的でありました。

今後も引き続いてこの会を開催することを確認し合ひ、取敢えず平成2年は東京地区で開催すると言ふことで閉会いたしました。

なお、この会の名称を“アカシヤ土木17”と決定いたしましたので今回出席できなかつた方は是非来年参加できるようお願ひいたしますとペンを置かせていただきます。（土木工学科第17回卒、郡山市役所勤務）



建築学科17回卒同窓会

倉田 光春

平成元年10月21日郡山市開成山の平安閣にて同窓会を開催致しました。建築学科から谷川、佐藤(平)、

からお待ち申し上げております。

校友会では、仮称、「母校を訪ねる会十周年回顧展」を企画し、北桜祭の行事の一つとして参加する予定であります。皆様に、何か良い企画がありましたならご提案ください。

なお、予想される平成2年度の、母校を訪ねる会の日程は、平成2年10月28日㈰であろうかと思いますので、これを念頭におかれまして、同級会など、各種行事を企画されてはいかがでしょうか。

校友会では、皆様方の行事について、できるだけご支援いたしますので、担当される方は、是非、事務局までご連絡ください。

師橋、国分、外山、小栗、橋本(寛)、黒田、有賀、若井の各先生、一般教育からドイツ語の堀田先生、事務局から日本大学本部人事部長の石田先生と購買部の本多氏、そして校友会会长の武田氏のご出席を戴き総勢55名という大変賑やかな会となりました。開始20分も前から先生や級友がロビーにぞくぞくと集まり、それは、懐かしさというよりは驚きに近い感動をもっての再会でした。宴会は、師橋先生、校友会会长武田氏のお言葉、谷川先生の乾杯の音頭、優等生神谷清仁君の自己紹介に始まる先生、級友入り乱れての全員のスピーチ、校歌齐唱、最後は、我等が名物男齊藤幹生君の一本メと盛会裏に終りました。



その後には、グループ別に市内へ流れ出し、二次会となりました。

翌日は、工学部中講堂南西側の角地に集まり、谷川先生立会いのもとに、卒業20周年を記念して植樹（トチノキ）をしました。

(建築学科第17回卒、日本大学工学部勤務)

機械科17回卒クラス会

今村 仙治

第9回「母校を訪ねる会」は第17回卒業生がその対象となり、この機会を利用して卒業以来はじめての同級会を10月21日夜に“郡山ビューホテル”にて開催し

ました。会った瞬間から学生時代の面影をさがすのに時間はかからず、和やかな雰囲気で楽しく話がはずみました。この会の感想はつぎの某君の手紙が如実に表現しているのでここに紹介して同級生に対するメッセージとしたいと思います。

『挨拶 同級会の幹事ごくろうさまでした。20年来の再会ただただ懐かしくうれしかった。卒業してから20年たってやっと本当に卒業したんだ、卒業生の仲間に入っているんだという実感と数人の同期の仲間と会えたことがよろこびでもありました。特に私の場合、「母校を訪ねる会」があることも知りませんでした。もし知っていれば今年は私達の順番だと気にかけておくのですが、友人の永井君からの連絡で突然急に降って湧いたように郡山の町、学校、先生、友人、下宿のおばさんを思いだし参加しました。20年の時のなせる業でしょうか。「母校を訪ねる会」うまい時間の設定です。是非もう一度再会を心から期待します。有難うございました。』おわりに、この会にご出席いただきました校友会副会長の半沢様にお礼を申し上げます。

(機械工学科第17回卒、日本大学工学部勤務)



電気17回卒クラス会

渡辺 直隆

卒業20ぶりの同級会と母校を訪ねる会に参加して—時の流れは早く、卒業して20年が過ぎてしまった。社会に巣立った同窓諸兄は、仕事などに追われて中に母校を見る機会はないのが現実である。今般、私共17回生を対象に工学部・校友会共催で「母校を訪ねる会」が開催されることになり、校友会からの勧めもあって、地元郡山市在住の内山、宗像(龍)両学兄と共に同級会を計画しました。従前の例から20名位という予想で会場を探して案内状を出したところ、責任ある立場で多忙の中、予想をはるかに超える29名の参加となり、恩師に本間先生(当時主任教授)、現学部長の本郷先生のお三方をご招待し、合計31名。時は平成元年10月21日。ところは郡山市、予約した会場は定員23名の広さで、まさに肩すり合うスシ詰め状態の大盛会となった。

料理もどれが誰のかわからない混み様でしたが、何よりも20年ぶりの再会に、懐かしさと嬉しさで話がはずんでいた。翌日母校を訪ねて後輩の学部祭をみながら、新しい建物や庭園など当時からは想像できない変貌ぶりに驚嘆する中、昼の懇親会で感慨は最高潮に達した。

この会のお陰で、消息のわからなかったうちの何名かと連絡がとれました。工学部・校友会関係者のご苦労に心から感謝する次第です。

(電気工学科第17回卒、日本大学工学部勤務)



母校を訪ねる会に出席して

松原 正彦

予め電話で連絡し合っていた友人達と車中で落ち合いい、郡山駅に到着したのは2時過ぎでした。20ぶりの空気自体がなつかしいものでした。この日は母校を訪ねる会の前日ですが、電気工学科のクラス会が6時30分よりありましたので、少し早めに到着し福島在住の友人に進境著しい街中を案内していただき、そして学部祭の行われている母校にも行きました。立派な学園を目指し、20年の歳月を新たにした次第です。

クラス会は、本郷学部長、本間先生御出席のもと30名の友人達と昔話及び近況などに花が咲きました。

さて、母校を訪ねる会の当日、一年生の時にお世話になりました俊英学寮の自分の部屋まで友人と共に行つた後、会に臨みました。同年配の人々が中庭に集まりつつありますが、別の科の人々でも学生時代に見覚のある顔であり、当時の様子が急速によみがえりました。ブレスバンドで始まった会、中でも久しぶりに聞く校歌に若き日を思い出したのは私だけでしょうか。

懇親会では、御出席の先生方および同級の皆様方と久しぶりにくつろいだ雰囲気の中で話しができましてとても有意義な一時でした。会の当日、前日の2日間は故郷に帰ったような楽しく充実した気持になりましたし、会が終った後、友人達と下宿に挨拶に行き御夫妻と話しができたのも良い思い出となることでしょう。

(電気工学科第17回卒、三鷹電工所勤務)



南北統一後の ベトナム・ハノイに滞在して

岡本ゴム株 常務取締役

今 村 伸

1. はじめに

昭和37年3月に工業化学科を卒業してオカモト株へ入社し、以来今日まで一貫して履物の技術者一人として仕事をしてきました。日本も国際化時代を迎えて外国へ行く機会が多くなりましたが、履物もアメリカへの輸出時代から一転して輸入時代に入りました。このために技術指導という事で、私は韓国・台湾・インドネシア・中国へたびたび行く機会を得ました。その中で履物を製造する機械設備の設置及び技術指導のため、1978年(昭和53年)7月から、1979年(昭和54年)3月まで8ヶ月間、ベトナムのハノイ市で過ごした事が強烈な印象となって残っていますのでそれをまとめて見ます。



2. 仕事の概要

このプロジェクトは1975年にベトナムが南北統一をした時、世界キリスト協会(WCC)からベトナム平和委員会(ベトビース)への寄附によって行われました。その建物はベトナム側で建てましたが、そこで用いる機械類は、国際入札の結果、我社に落札した訳です。そしてこの機械設備によって約2,000人の人の働く場所を作る事でした。

●設置した機械設備内容

1. バンバリーミキサー (ゴム練り機械)
2. ストレーナ (押し出し機)
3. 18インチカレンダー (ゴムと布を貼りつける)
4. 3本カレンダー (テープゴム用)
5. 5本カレンダー (底ゴムをつくる)
6. プレス機 (底ゴムをつくる)
7. 刷引き機 (布と布を貼合せる)
8. 搾性機 (ゴム糊をつくる)
9. ミシン (艶布縫製)
10. 加硫鉗 (加硫機)
11. 遠心分離機 (ラテックス濃縮)
12. ジャッキーコンペア (成型機)
13. ボイラー (石炭用)
14. 試験機 (研究検査用)
15. その他附属設備

上記の外、ハサミから包丁、糸針のたぐいまで、また製品をつくる材料としてゴムの外、布地、CaCO₃等全て我社から製品の出来るまでのものを持って行った訳です。費用は当時で総額7億円でしたが、現在では20億円以上になると思います。



3. ハノイ

先発として一度行った事のある私の上司と商社の人そして私の3人で出発しました。成田空港から北京まで約5時間、北京から南寧(中国)、南寧からハノイまでが約40分かかります。空港にはビルはなく、関係建物があるだけでした。飛行機から降りるとすごい暑さで日まいがする程でした。ベトナムの人に空港の食堂で暖かいピールを灰色のストローでごちそうになりました。我々の宿舎は、タンロイホテルといい、キエーパの援助で湖の中に建られた新しいホテルです。すぐに人國管理局と日本大使館に連れていかれましたが当時、日本人は38人しかベトナムに滞在していなかったので、大使初め大使館員総出で歓迎してくれました。大使館の人々には風呂のない生活の中で風呂に入れて

貰ったり、仕事のアドバイスをして貰ったり、日本食を食べさせて貰う等何か問題があると駆け込んでいました。大変親切で色々とお世話になりました。



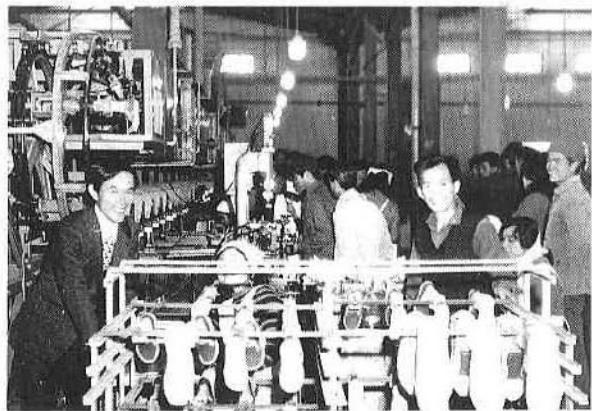
4. 昼食の確保

工場はホテルから車で1時間程の所にあります。昼食をいちいちホテルに帰ってするため、1日4時間位しか仕事が出来ないので、ベトナム側に午前8時出発をもっと早くする様に話しましたが、運転手は時間外だからとダメ、それでは食堂に掛合って弁当を作つて貰おうとしたがダメ、ベトナムにいるソ連人、フランス人も皆同じ時間で働いているとのことでした。これでは6ヶ月の予定が2年も3年も掛かってしまうと考え、朝食のトーストを余分に取りバターをはさんで持ちかえりこれを昼食としました。それに工場の近くの市場で安く売っているバナナを食べました。ある日この昼食をフランス人に話したら、彼はじっと考え込み、日本人はその様にして働くから経済大国になるのも当たり前だといわれました。近くの市場で青ぼいみかんを買って来て食べた事もありましたが、非常に酢っぽくおいしかったがベトナム人がこれを見て食べてはいけないという。この青みかんは髪を洗う時に使用するものでした。頭のしらみを殺すため強い酸性の青みかんで洗うのだそうです。

5. トラブルその1

機械設備はボイラーの設置から始まりましたが、所定の場所へ移動すると云うので見に行きましたら、36トンもあるボイラーを吊っているワイヤがあまりにも細いので、びっくりして注意しましたが、今までこれをハイボン港で吊り上げに使用していたのだから大丈夫といわれ黙認しました。結果はやはり切れてしまいました。1mの高さから36トンものボイラーを落としてしまい、外観的には問題ないと思われましたが、後で水圧試験の際、煙管に水漏れが発生し、その修理機具の調達に苦労しました。パイプを広げ、つなぎ目とかみ合せる機具を捜しましたがなく、2~3日が何んとなく流れてしまう。ワイヤーが切れた事が原因と思われるが誰に話してもダメ。ベトナムは汽車が走っているのを思い出し、蒸気で走るので煙管をなおす機具

がある筈。工業局に連絡をとつて借用しました。しかし自分でワイヤーが細いと思った時になぜ止めなかつたのか、おおいに反省し以後の仕事では頑固といわれながら通しました。工事が終わるまで全部責任は日本側にあると考えなければなりません。



6. トラブルその2

ベトナムは天気が快晴でも中国で降った雨のため、年に何回かは洪水になると云います。この事を知らずに縫製工場の床下に電線を張つて工事をしました。ベトナム側も何も云いませんでしたが天井に配線すべきでありました。工事が進む中でモータ類が半分近く水につかった事がわかり、1つ1つバラして乾燥しました。この仕事は我々よりベトナムの人達は良く知っています。一番困ったのは靴の形に裁断する抜型が真赤に錆び刃先がボロボロになっていた事です。

1年も先に送っていたものでしたので水に浸つて、放置された様です。我々の責任ではないと思っても、以後、仕事にならないので、これらを使える様にしなければなりません。ベトナム側は日本でつくりなおして送つて欲しいという。時間がかかるし、費用もかかる。2日、3日考えた末、次の様な事を試験して見ました。稲藁を燃やして灰を作り、灰が熱い内に、バーナーで抜型を真赤に熱して灰の中に入れて、一昼夜放置、その後ヤスリで平らにし刃先を作りました。抜型を水の入った洗面器に入れ、刃先の下1%のところを水面にして、バーナーで少しずつ赤熱しながら水をかけ焼入れをしました。抜型全体を赤熱して油や水を入れて焼入れする方法もあるが全体にヤキが入つて抜型では簡単にわれてしまいます。焼入れをやつた事のないベトナムの人達といっしょに200型もやるのですから大変でした。しかしいっしょにやつた人達は技術を習得して喜んでいました。以後我々に技術面で良く質問する様になりました。

7. 日本製自転車の人気

我々の系列会社のゼブラ自転車を10台持つていきましたが、すごい人気でホテルの庭で組立てをしていると、ホテルの従業員にかこまれてしまいました。日本の自転車がめずらしかったのです。又この自転車を借

りたいと夜中何回もたたき起されました。フランスやチエコスロバキアの人が貢夜中電報を打つから局に行くので借りたいとの事、休日に街へ行くと私の周りに寄って、走りながら、ニヤットバン（日本人の事）と云って自転車をジロジロと見ます。デパートで買物をして自転車置場へ行くと黒山の人ばかり。ベンツ等の良い車があっても見ようともしない。自分達に身近な自転車に関心があるのでしょう。又自転車は遊びだけでなく、仕事にも役立ちました。帰国の日、大使館へ3台、工場へ7台置いて来ましたが大変喜ばれ感謝されました。



8. 食べ物について

当初60kgあった体重は8ヶ月後47kgになり、こんなに痩せた事は初めてでした。一つには、慣れない食物のためもありますが、気候のせいもあります。やせたいとダイエットしている人はベトナムへ3ヶ月も滞在すれば、やせる事が出来ます。冬になると気温は5度まで下がりますが、太陽が出ると30°C以上になります。キルティングを着たり半袖になりました。

ホテルの食事は、ライス、オムレツ、もやしの炒めもの、水牛の硬いカツ、春巻、のくり返しでした。時々、食用カエルの足、焼そばがありました。調味料は黒コショウ、塩、醤油（ニュクマム）があるだけ。慣れてくると、ニュクマムという醤油は忘れられない味でした。この醤油は魚の蛋白質をアミノ酸に分解して（腐らせたもの）塩味をつけたもので、クサヤの干物と同じ匂いがします。この匂いに慣れないと生活出来ません。帰国する時、1ピッ貰って来ましたが、家族皆に臭いといやがられ処分されてしまいました。良くうどん屋にも行きました。初めは日を喰って食べてすぐホテルに帰り抗性物質を飲みました。しかし慣れてくると火を通したものであれば、にわとりの足でも、トサカまで食べる様になりました。現地の人と同じものを食べる事がより良い健康法で土地に慣れることがあります。

9. 中越戦争

滞在中、中越戦争が始まり、最初はまたかと云う感じでいましたが、大使館より、出来るだけ帰りなさい

という通達がありました。残っている人は計画行動と居場所を明確にし、何かあったら大使館へ走り込める様にせよと云って来ました。しかし、その時はまだ建設中で帰る事は出来ません。日に日に街の様子が変わり街角には徴兵された人が集まってきた。その家族が泣きながらついて行く光景に、何とも言いようのない複雑な思いがしました。工場に行くとやはり志願をして行く人達が我々に挨拶に来る様になり、何と云つて良いものか、言葉に困りました。志願して行く人達は我々に協力的で、しっかりした仕事をする人が多かったので、仕事に支障を來す場合もありました。工場の中にも垂壕が出来、兵隊の訓練も始まり、何とも落ち着きません。そんな折、ホテルに居て大砲の音を聞いた時は動搖しました。

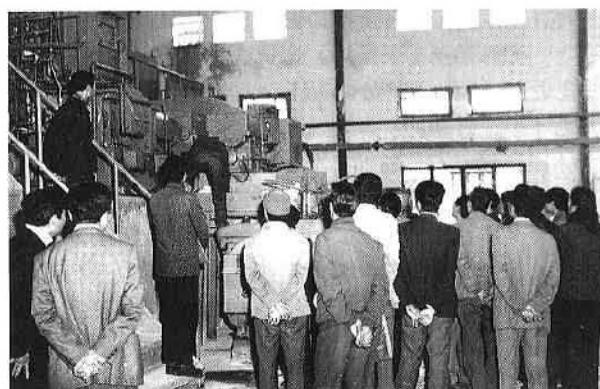
この時商売に来ていたある商社の人がわざわざ私の部屋に来て、明日、日本へ帰国するが、家族に伝える事があれば、と云いましたが、別にないと返事をしました。しかしこの頃、日本人記者が一人取材中に死亡しており、日本でも心配していたようで会社にも私の家族にも、新聞記者の取材がありました。帰国してから新聞を見せてもらいましたが、あの時、もしハノイが戦争になっていたら巻き込まれていたかもしれません。

10. おわりに

海外でチームを組んで仕事をする時、長期間になると個々の自我がだんだん出て来て、人間関係が悪くなり苦労をしました。陽気な人は良いが真面目なだけでは通用しなくなり、現地の人と喧嘩をして早目に帰国した人もいました。我々のプロジェクトは意外にも好評でした。ハノイの市長、国会議員も、見学に来てベトナムのテレビにも放映されました。又ゴム関係、縫製関係の工場の設備の引合いが来て見積りをしましたが、カンボジアへの侵攻によって、日本が援助凍結をした為、その後一つも実現しませんでした。今、私は設置して来た機械のその後のメンテナンス等、どうなっているのか、この文章を書きながら思い出しています。

我々のプロジェクトの中に、工業化学科17回卒の吉田信夫君も参加していた事を付記して終りとします。

（工業化学科第10回卒業）



エンジニアあれこれ

パラマウント硝子工業株 半 沢 忠

校友の皆さん今日は。卒業以来30年余を過ぎてしまいました。卒業当时色々希望を胸にいだき将来を夢みたものでしたが、今振り返ってみると、ただ時を過ごしてしまった様に思います。

振り返って、一人一人に心に残る想い出がある様に私にもいくつかの想い出があります。その一つは、初めて海外出張を命じられ、オーストラリアに出張したのが海外出張の始まりで以来、カナダ、イタリア、中国、ハンガリーと他国で仕事をする機会を得ました。国境、人種の違いを越えて、眞の交流ができたこと、うれしい時には笑い、悲しい時には、涙を流して泣く同じ人間であること、平和な世界を皆んなが願っていることも知り、治安、気候、風景、自由の何をとっても日本ほどすばらしい国はないことを実感し、仕事の面では苦労も多かったが、今では懐を閉ると、あの国、の人、あの時が想い出されます。



私が初めてオーストラリアへ出張したのは、1968年（昭和43年）で当時年間の海外旅行者が40万人で、今日の何んと20分の1位ですから当時は非常にめずらしいものと思われました。現に、多勢の方々より競争を戴き、恐縮したことがあります。他方いかんせん田舎育ちで、ホテルの泊まり方も、食事の注文の仕方も、飛行機にさえ乗ったことのない時であったので、機内での食事も外人スチュワーデスとの会話もままならず。Would you like Tea with milk? ミルク入り紅茶は如何ですか？と云われとまどったことがあります。紅茶にミルクを入れて飲んだことがなかったからです。ところが、学生時代はとんと地理学などには興味がなかったのですが、海外に出るようになってから興味を持つ様になりました。ハンガリーが共産党という党名を捨て、ポーランドは連帯との連立政権を、東ドイツはついにベルリンの壁を取り払った。中国は天安門事件で民主化を、チェコスロバキアでは自由を求めてゼネスト、フィリピンではクーデター騒ぎが起こった。これらの光景を見聞きするたびに心の痛みを感じる様になりました。

私は、この30年余の間、グラス・ウール断熱材メーカーで働き、多くの人々との出会いの中でうれしいこと、悲しいことの積重ねで私という人格ができ上がって来た様に、今や住宅も大きく変わり、1世帯住宅より2世帯住宅へと、高断熱・高気密化住宅へと移ってまいりまして、断熱材を使用しない住宅はないと言っても過言ではないでしょう。これから新築される方、改築される方の為に、住まいに関する、金言、格言、語録を列記します。

◎家の高いのより、床の高いのがよい。

高温多湿の日本では、住まいの通風は最も大切なこととされてきました。特に床下からの湿気を避けるための、高床式工法による建物は伝統的な住居形態のひとつです。

◎夏炉冬扇

夏建てた家は窓などが多く開放的で、反対に冬建てた家は閉鎖的な設計になる傾向があるといいます。日本のように四季の変化がある環境では、夏は冬を意識し冬は夏を意識して設計するといいといいましめです。

◎三軒長屋のまん中に住むと病気が絶えない。

長屋のまん中は日射、通風、換気などの面からみると良くない環境にある。

◎頭寒足熱

寝るときには足を冷やさないように、ということ。断熱していない住まいは、暖房しても熱は温度の低い天井方向に移動するため、「頭熱足寒」になりがちです。

◎賊風は身体に毒

忍び込むすきま風は身体によくなきことをいいます。現代の住宅は気密性が向上しているため、すきま風の忍び込む余地はありませんが、結露発生の原因のひとつになっています。結露を防ぐには、断熱性の向上と同時に湿気を逃がす設計に留意しなければなりません。



今後、めまぐるしく変化する現代において無限に多様化している社会のニーズに的確に対応していく心構が必要であると思います。〔写真：左：グラスウール製造を始めたイタリアの人と 右：コペンハーゲンにて〕

（本会副会長 工業化学科第6回卒）

海外トラブル楽しみ記

機械工学科専任講師 河井 宏文

最近の新聞記事によると、日本人が海外旅行中にトラブルに巻きこまれる例が増加しているそうですが、今回の海外派遣研究員としての、私の場合の大小トラブル体験をお話ししましょう。

グラスからロンドンに向かう際に、雷雨がひどくて3時間も飛び立てなくて機内で缶詰め、到着したガトウイック空港では機内預けの手荷物が行方不明で係員の指示であちこち捜して、倉庫のような所でやっと発見したときは、2時間もたっていました。ロンドンで2泊し、ドーバー海峡の船旅を楽しみに、まず地下鉄の駅に行きますとシャッターが閉まって全国の国鉄はストライキ中の掲示あり。列車や船の予約は前日長い行列と窓口のたらい回しの末、やっと手に入れたので、飛行機に変更するのは瘤、料金も多い。ビクトリア駅の近くに行けば何とかなるだろうと、タクシーに乗ったら、親切な運転手で郊外行きのバスターミナルを捜して切符売り場まで連れて行ってくれました。3回乗り換えてやっとハリウッド港にたどり着きましたが、ロンドンから110キロ余に及ぶ、村々をぐるぐる回るバスの2階からたっぷりとイギリスの美しい川岸風景を堪能出来たのは、8回目の訪英で初めてのことでした。



ドイツでは、古くからの友人のH氏が約2週間、経営する設計コンサルタント会社を休暇にして同行してくれたのですが、ケルンの大聖堂を見物した後、ラインの川岸を散歩していると、アラブ系の若い二人連れが英語の新聞を買え、としつっこくまとわり付き、追い払ってホットしていると、また追いかけて来て、「落とし物だ」と航空券を入れておくビニールケースを差し出しました。ここでピンときたのですが、ケースを掏摸取ったが空なので拾ったことにして、謝礼でも当てにしているのかと思いながら、ポーチのジッパーを開いた瞬間、一人がポーチの中に手を突っ込んできました。H氏が何やら叫んだので、咄嗟に相手の手を掴み逆手にねじあげたところにH氏が肩を掴み、道に押し倒して捕まえました。彼は両手で犯人の口を押さ

えています。変わった押さえかただと思いました。

貴重品は下着の内側に、布製の袋に入れて紐で首にぶら下げており、被害は無かったのは幸いでした。滞在中に知り合った、ブラジルの工科大学生、パリ住まいの若い日本女性やスペインの夫婦などはカメラや財布等を掏摸にやられたと話しておりました。夏は軽装なので、航空券、パスポート、トラベラーズ・チェックや現金などの携帯に苦労します。腹巻も考えましたがこれ以上大きな腹に見えるのはちょっとね。

まだまだ小さいトラブルが続きます。永年使用したカメラが出発前に故障したので、日本で新調したコンパクトカメラは、ドイツに着くと直ぐに故障し、プレーメンでライカのコンパクトカメラ(日本で製造)を買いましたが、2、3日でストロボが故障する有様です。パリ空港では、航空券に修正箇所があるから無効だと美人のパリジェンヌに長時間いびられ、上司の男性の一言でOK。一般に女性の係員は厳しく、男性はスマーズに手続きが済むようです。つい美人の前に並ぶものですから。この時も、飛行機がエンジントラブルで滑走路の途中から引き返す有様です。この後、アメリカでグラスからの帰りの飛行機に乗った際、雑誌の広告の、「アメリカン航空のメンテナンスはパーフェクト」と宣伝している所を眺めていると、またまた機内放送で、エンジントラブルなのでターミナルにひきかえすこと。エアーホステスに「今回の旅はアメリカン航空ばかりを利用したのに(実は安かった)、トラブル続きた」と文句を言ったら、彼女は「私は5年の搭乗経験ですが、エンジントラブルは初めて経験します」。ちょうど翌の後ろの窓側でしたので、エンジンカバーを外して点検修理の作業を眺めていると、彼女が制服の内側に隠して、ファーストクラスのキャビンから朝日新聞を持ってきて、そーっと渡してくれました。それからは、仕事が一段落すると、隣の席に座って、音楽や旅行の話が弾み、お蔭で楽しいフライトになりました。

旅に出れば、少々のトラブルはつきものですが、今までの14、5回に及ぶ海外出張で、これ程集中したのは初めてです。しかし、親切な人に出会ったり、下手な英語での交渉で、冷汗もかきましたが、段々度胸もついてトラブルを楽しむ余裕も出てきました。そういうえば、ロスの空港に着いた際も手荷物が行方不明で、係員から証明書をもらい、昼食後に再度行ってみると後の便で着いていました。そのまま手続きもしないで荷物を持ち出したので、今、手元にある証明書を提示すれば、損害賠償金を取れると思うのですが、如何いたします。[写真:ミシシッピー川 外輪船上にて]

(本会評議員 機械工学科第9回卒)

新入社員=無我夢中

豊田紡織株 長 坂 恵 伸

私の勤務している豊田紡織(株)は、織維メーカーから自動車部品メーカーへと業種転換しその柱として昭和60年9月に日本電装株殿より移管を受けてエアフィルターの生産を開始した。現在は、エアフィルターなどの企画から生産までの一貫生産体制の強化に取り組んでいるところである。そんな中で、就職し早くも2年が過ぎようとしている。入社してすぐに新入社員教育。これは、自社製品の知識習得と共に合宿などを混じえた新入社員同志のコミュニケーションの場となる。合宿では朝早くから体操やランニングをしたり、声をからしながらこれから抱負を述べ合ったりした。打ち上げでは、それぞれの学生時代の話で盛り上がり夜遅くまで酒をぐみかわし、翌朝は皆が青い顔をしながらラジオ体操をした。社会人となつたことを初めて、実感し、「これからがんばるぞ」と心新たにしたことが思い出される。統いて工場実習。ここで製品の製造過程等を覚えるのだが、自動車販売市場が活況の時にあり大変忙しい時期であった。組付ラインで実習した時には、そのあまりの速さにとまどった。流れを止めまいとあせればあせる程もたつてしまい、周りの人助けでもらいながらやっとの思いで流れについていった。まだ、はきなれない底の堅い安全靴で長時間同じ場所に立ったままの作業が2、3日続くと足の痛みが次第に腰・背中へと移り全身に疲労感を覚えた。5月から8月までの3ヶ月間は、トヨタ系のディーラー実習。つまりセールスマンになって自動車販売をするわけである。これは、自動車製品を造るうえで、お客様に直接会ってそのニーズを知り、かつそれに応えられるような製品造りをすると共にセールスマンの重要性を肌で感じるためであると思う。始める前から解ってはいた事だが、1台数百万円もする車がそんなに簡単に売れるわけがない。それどころか車の話をすることすら容易ではなかった。外廻りの初日、真新しいセールスカバンに数十冊のパンフレットと刷りたての名刺100枚程を入れ、近くの団地へ向かった。外廻りの時は、販売店の先輩に朝10時頃、近くの団地などへ送ってもらい夕方5時頃に迎えに来てもらうという毎日であった。地図を片手に訪問先を決めていたが、玄関の前に立つとためらってしまう。30分程付近を歩いているとふと表札が目に入った。それは学生時代の友人と同姓同名であったのである。よし、この家から始めよう、と振える手でインターホンを押した。「ピンポーン」「ハイ」「こんにちは、私、トヨタ〇〇の長坂と申します。この度この地域を担当することになりましたので、よろしくお願ひ致します。」「車のセールスね。知らないワ。」「どんなお車にお乗りなんですか」「.....」「あのう...」「今はいりません。」「どうもすみませんでした。失礼します。」これが今でもハッキリと覚えている1軒目で話した一部始終である。しかし、これがあたり前なのだ。自分でも自動車に限らず、セール

スとわかると「いまは、いりません」とろくに話も聞かずに断わってきた。1回目の訪問では、極力、車の話はせずに、挨拶だけにしたのだが、その日廻った80軒程の半分近くの家すでに断わられていた。配った名刺が1,000枚を数える頃には、2回目、3回目の訪問になっていた。梅雨に入り、ドシャ降りの中通った甲斐あってか顔も少しずつ覚えられ、査定台数も増えてはきたが、商談まではいけなかつた。新聞やニュースで「自動車の販売台数が順調に伸びている。などと見たり聞いたりする度に気が滅入つた。梅雨が明け、照り返す日差しの中、これといった話もなく訪問を重ねた。そんな時、土・日曜を使い販売店に車を陳列してサマーセールを行なつた。訪問販売と違い、店へ来るお客様は、少しでも買う気があるわけで、私も運よく同世代の男性に売れた事ができた。3ヵ月は、あっという間に過ぎ訪問販売では結局1台も売れず、土・日セールや知人、知人の紹介などで、販売台数5台という結果で終わった。訪問販売というのは、車を売る前にまず自分自身を売る。そして次の機会に自分から車を買ってもらう。3ヵ月と短かい期間ではあったが、2度とできない貴重な体験となつた。工場実習、販売実習では、緊張の連続で精神的にも肉体的にも非常に疲れたが、たつた1台の車をお客様にお届けするのにそれぞれの場所で、太勢の人々の苦労があることがよく分かった。工場の現場では、忙しい中で、声をかけてくださったおばさんの何気ないひとことで心が和んだり、車が売れず、落ち込んでいる時に、先輩がお客様を紹介してくださつたり、多くの人の助けをかりて、なんとか無事に実習を終えることができ感謝している。実習で得たものは、自分自身の中で非常に大きな力となっていると思う。そして9月。いよいよ配属である。同期27人中、私を含め4人が日本電装殿へ出向と決まった。エアフィルター設計移管の為、既に12人の先輩が出向していた。そこでは、CADによる設計と完成品の評価という、製品となって、生産されるまでを担当している。全く扱ったことのないCADや実験装置にまずとまどい、この部署へ配属になり1年以上たつが、現在でもマニュアルを見ながらの操作で、時間ばかりがかかり、帰宅は11時過ぎという日が多い。学生時代とは違い甘えが許されないが、好きな自動車関係の仕事でもあり、新たな製品開発という夢のある仕事で、充実した毎日を送っている。休みの日には、同僚社員とテニスをしたりキャンプに行ったりと社内の人間関係にも恵まれ、時には、日々のクラスやクラブの友人と連絡をとり、仕事の様子などを話したりして、互いに励まし合つたり、良い刺激剤になっている。4年間の下宿生活、クラブ活動、就職してからの工場実習、ディーラー実習を思い出し、またそこで培った経験を生かしこれからも頑張っていきたい。（機械工学科第36回卒）

同窓会・支部だより

工業化学科12回(昭和38年度)卒の同窓会 水野 宏

我々は、昭和39年の卒業後新入社員教育が終わると東京オリンピックが開催されていました。世の中オリンピック景気でなにが何だかわからぬ内に、日本の高度成長の波に乗り仕事が忙しく10年が過ぎました。

やっと1人前になつたら思い出してもゾッとする石油ショックに見舞われこれを乗り切る為日夜並々ならぬ努力が成されました。2度にわたる石油ショックからのかれられたと思ったら円高、構造不況と、またも手痛いショックを受けたのです。この時は、会社でもベテランに入っていましたので、責任感から、がむしゃらに働きました。やっと世の中落ち着いたと思ったら大学を卒業して25年、1/2世紀が、過ぎ去っていました。振り返ると実にあつという間の出来事です。

さて、こんな訳で同窓会名簿やら人伝てに聞いている住所を頼りに通知を出した所19名の参加者が、郡山日大研修会館に平成元年9月23日16時に集まりました。先生方は、宇野原教授と内田講師がご欠席、岩田講師は住所が判らずご案内を出せませんでしたが、当時卒研を担当された高木教授、菊池教授、後藤教授、高野助教授の参加を得ました。



冒頭高木教授から、25年振りに再会した我々一同にたいして、こういう席に出席出来るのは教師冥利に尽きるというお言葉でスタートし、7名の物故者の冥福を祈り、出席者全員の歩みを手短に披露しました。卒業以来の成果は、それぞれの分野で苦労してきてただけあって正に日本の工業界の一翼を担って来たという感がしました。

薬品会社に勤めるK氏は、自分の手がけた薬で子供の病気を治し、世のため人のために働いている実感を得、25年間乾電池の研究開発にあけくれ10年も寿命を持つ電池を開発したS氏の話、学校教育に体を張っている話、特に自営業の人は、2度にわたる石油ショックからつい最近やっと景気が上向いて来たという生きる体験談と……尽きる事なく予定の時間をオーバーしてしまいました。

次の日は、休日なので有志だけで郡山の校舎を訪ねる予定にしていましたら、高木教授のご案内を得て昔の面影は、ほとんど無くなつたキャンパスを、探索する事ができました。特に昨年完成した情報関係の建物は、8階建てで最上階からは昔の実験棟や寮の跡、遠く安達太良山、市内が一望出来これは圧巻でした。

次回の同窓会での再会を約し、それぞれに青春の思い出をかみしめ散会いたしました。

(工業化学科第12回卒、京和ガス株勤務)

土木14回卒「二工会」について

早川 一胤

土木14回卒のクラス会を平成元年1月28日に約30名の参加を得て開きました。卒業して初めて参加した人も数人いました。今後、毎年1月最終土曜日を定例として行つて行きたいと思っております。会の名称は「二工会」で、機関紙「二工」も発行しています。我ら、昭和37年4月入学、41年3月卒業までにかかわりのあった者を全てクラス会員の対象としております。昔はこだわりがあったかも知れませんが、卒業して相当の時間が経過していますので、現在及び将来の情報交換の廣場として、クラス会が活用されるのは良い事と思います。人のつながりはいついかなる時に効果を表わすかわかりません。

昭和63年の暮に、同級会の通知と「二工 第3号」を150人に発送し、返送は3通でした。通知の届かなかつた人は連絡をください。(平成元年3月12日)

(土木工学科第14回卒、東京都水道局勤務)

土木13回卒「アカシヤ会」同窓会

世良錦源・栗田則男

土木13回生の「アカシア会」の同窓会が1989年(平成元年)11月28日有楽町のフードセンターで5年ぶりに開きました。仲間数人と集まつたとき、同窓会でも



久しぶりにやろうや、ついては一番暇な世良と栗田が幹事になってやれということだったので、急ぎよ、日時、場所を決め、十分な連絡もできないままに開いてしまった。（連絡がいかなかった人には、誠に申し訳ない。）丁度20人の元日大健児が集まつた。

卒業して早や24年、頭の薄くなった者、白髪混りの者、中にはふさふさとした真黒の髪の持主もいた。（悪いから引っ張らなかつたが）平均して中年ぶとりの感はあつた。卒業以来初めての出席である西村慎司やはるばる軽井沢から駆けつけた太田建国（旧姓高藤）など、なつかしい面々が集い、学生時代に戻つた一時であった。二次会は、銀座のクラブに練り出し、普段もてたことのない、中村修二、正立克英などは興奮が覚えやらなかつた。また、いつの日か「アカシア会」を開くことになりますが、連絡先は下記にお願いします。

世良錦源

栗田則男

平成元年度 北海道支部総会を終えて 北海道支部幹事 松本 昌樹

北海道支部総会は去る7月15日、札幌市中央区内の札幌アートプラザホテルで、校友会本部より半沢忠副会長をお迎えし、大学からも一般教育の永塚功教授、建築の外山隆吉教授他5名の先生方の参加をいただき、恒例となつた「若きエンジニア」の大合唱のもと、大きな盛り上りの中で無事終了いたしました。

校歌のメロディが流れる中、松山忠牡支部長の挨拶の後、懸案の大学開校100周年記念事業寄付についての参加者への賛同を呼びかけ（当日は成田、佐々木、松山先輩らの寄付申込が早々ありました）昭和63年度事業報告、昭和63年度会計決算報告等に対して、満場一致の承認がなされました。

今年度は、支部名簿の改訂も、参加者よりの情報、案内状の返信資料等の整理などにより、校友の動向を正確に把握する事を目標にした準備の年と云えます。

一方では事務局幹事の後継者的人材発掘、育成にも力を注いだ年であり今後の支部活動が増々期待されるところです。

総会には札幌近郊の校友35名が会場に集うなか、道東知床の斜里町より、石井一元先輩、十勝の池田町からは成田一稔先輩が今年も駆けつけて下さり、受付では幹事の中から「遠路御苦労様でした」との労いの言葉も快くひびき、参加者の歓談の渦が増々広がる一時でした。会場では、大学、校友の近況等などの話で、くみ交わすお酒の量にもはずみが付いたのか、着き日の足どりで又来年度の再会を期しながらさんざんご帰路についた校友も多かった様です。

（土木工学科第22回卒、札幌市下水道局勤務）

支部等の総会

○九州支部総会

平成元年7月14日㈮

福岡市 城山ホテル

参加会員 53名

本部から 武田仁幸会長、小川敏彦理事

来賓 木村喜代治教授他6名

○北海道支部総会

平成元年7月15日㈯

札幌市 アートプラザホテル

参加会員 37名

本部から 半沢忠副会長

来賓 永塚功教授他6名

○東海支部総会

平成元年7月29日㈯

名古屋市 ホテルキャッスルプラザ

参加会員 53名

本部から 佐藤吉新副会長

北海道支部

支部長 松山 忠牡(土14回)東急建設㈱

事務局長 松久 房夫(土19回)札幌市下水道局

東京支部

支部長 吉村 和夫(土3回)吉村建設㈱

東海支部

支部長 平野 卓(土3回)

東京エンジニアリング㈱名古屋支社

事務局長 河野 叶(土6回)秋芳技建㈱

九州支部

支部長 湯村 篤後(建10回)福岡県柳川土木事務所

事務局長 陶山 順一(建15回)株陶山建設

四国支部

支部長 谷久 嘉典(土8回)谷久工務店

事務局長 渡部 修三(土19回)渡部工業㈱

第10回母校を訪ねる会

日時 平成2年10月28日㈰(予定)

対象 第18回卒業生(昭和45年3月卒業)

該当しない校友の参加も歓迎。なお、前日同級会など開催され多数出席されるようお待ち致します。

噂のページ

◇谷本 巍君（専門部土木1回卒）

平成元年7月に行なわれた、参議院議員選挙に、日本社会党の比例代表区から立候補して、見事当選されました。今後の活躍を期待いたします。（事務局）

◇根本 亮君（土木3回卒）

平成元年4月、千葉県企業庁長に就任。
日本大学広報部発行の「日本大学広報」No271号（平成元年10月31日）の「私の学生時代」欄に登場。卒業論文に全力、青春ぶつけた北心寮ストームなど豊富な話題の談話を披露。この「広報」は父母号として企画されたもので、オール日大の全学部の父兄に郵送されています。（事務局）

◇金子 武君（化学14回卒）

防衛省に勤務されていますが、日頃の研究がみのり、平成元年7月10日、「W-Ni-F系の焼結合金の機械的性質に影響を及ぼす各種要因の実験的研究」で、日本大学（生産工学研究科）から工学博士の学位が授与されました。（事務局）

◇大平清一君（電気16回卒）

昭和47年4月から母校に勤務し、現在、電気工学科で助教授をしておられます。日頃の研究がみのり、平成元年7月13日付で、「X-Yリニア誘導モータを用いた搬送・分岐特性に関する研究」で、東京大学から工学博士の学位が授与されました。（事務局）

◇古橋栄吉君（建築8回卒）

日本大学東北高校建築科に勤務。
この写真は、彼の工学部のデッサンですが、このように古橋君が日本大学本部ならびに14学部と通信教育部



について描いた15枚の絵が、日本大学100周年の記念として式典参加者に贈られた「日本大学100年」の冊子の中にとりあげられています。

また、これらの絵は、日本大学広報部発行の「季刊桜門春秋」の表紙を飾っており、昭和61年12月発行分から現在も続いている。ちなみに、「季刊桜門春秋」は80~90ページほどの冊子で、日本大学広報部(03-262-0396)から発行され、年間購読料は1,600円です。（事務局）

留学生からのメッセージ

感じるままに

機械工学科3年 Joko WIDODO

4年前、日本で学ぼうという目的で来日しました。この4年間に色々なことを経験し、日本の良いところも悪いところも大体わかりました。今、私の日本に対するイメージは、日本に来る前のイメージと大分変りました。特に教育関係で、学生のことも授業のことも私のイメージと大変ちがいました。4年間で日本の学生もしくは日本国民の中で生活になれてきました。今では、たまに自分が外人であることをあまり感じなくなり、毎日日本料理を食べて、日本語で会話したり、さらにたまに夢の中でも日本語で話すようになります。日本語のハンディキャップがもちろんありますが、日常生活では日本語による困ったことが、ほとんどありません。今3年生で来年度の卒業研究を楽しみにしています。（インドネシア共和国出身）

21世紀の日本大学

建築学科2年 陳 廣聲

アッという間に10年間が過ぎたら、どのような日本大学が世の人々の目に写るか？考えてみませんか。私は留学生であるので、21世紀の日本大学への期待は両期的な国際交流の豊かな学府ということです。イメージだけだと無責任です。「外人」と呼ばれて

も当たり前になつてはいけません。日本大学を国際的場から離して考えず、無関心にならないように努力すべき所が沢山あります。

新しい世紀に対して、夢を持ち、マクロ的世界に奉仕しようとする日本大学になってほしいと祈っています。最後に、校友会からこの機会を頂き、感謝します。私も21世紀に向かって頑張って行きます。（中華民国出身）

私の感じたこと

土木工学科1年 モハッモド、モンゾロ・ホサイン

私は日本に来てからもう2年半になります。最初は外国人の友達が大勢いて日本人と親しくなる機会がありました。今度大学に入学して以前日本人の事を誤解していたことに気がつきました。言葉がわからない上にお互いに理解しようとしている判断するのは間違いであることがわかりました。私は今大勢の日本人の友達がいろいろと相談したり勉強を教えてもらったり一緒に遊んだりして最高に楽しい時を過しています。日本にいる外国人の皆様も日本人と友達になって自分の専門だけでなく、日本の伝統文化芸術を学びながら楽しい毎日を過してほしいと思います。そうすれば自國へ帰ったらきっといい思い出になると思います。（バングラデシュ人民共和国出身）

CAMPUS

mini—MEMO—

◇校友の母校での教員

平成元年4月1日付で昇格されました。

助教授 柳沼福夫（機5回卒）

藤田龍之（土14回卒）

尾股定夫（電20回卒）工博

永嶋誠一（電20回卒）工博

専任講師 藤原雅美（機23回卒）工博

◇一色・矢作・佐藤の三先生が定年退職

一色忠夫（機）昭和33年4月1日～平成2年1月1日

矢作英雄（建）昭和50年4月1日～平成元年7月18日

佐藤和郎（機）昭和55年4月1日～平成元年5月4日

◇日本大学大学院工学研究科だより

①昭和63年度、次の3名に工学博士の学位を授与。

大矢 征：電力線から通信線への電磁誘導障害の予測計算とその軽減対策に関する研究

S. 63. 11. 28

尾崎武二：二重探針および双極電極を用いる四電極法による電気化学測定法の研究

S. 63. 11. 28

柴田文男：球状黒鉛鉄の電子ビーム溶接に関する研究 H. 1. 3. 13

大矢君は電気工学科の12回卒、現在神奈川工大に勤務。尾崎氏は日大工学部助教授。

②昭和62年度大学院設備拡充費

「圧縮および側圧による摩擦を利用した材料の切断」機械工学科の佐藤和郎・依田満夫・今村仙治・橋本純・小野沢元久・佐藤光正の諸先生。切断装置、材料特性試験機、計測装置などで経費は約5,000万円。

③昭和63年度大学院設備拡充費

「高圧気液平衡に関する研究」工業化学科の加藤昌弘・田中裕之の諸先生。高圧気液平衡測定装置一式で経費は約5,000万円。

◇課外活動各部の活躍

20ページへ (た)

11月に新たに校歌の一節を想い出しながら頑張っております。

(H. 1. 4. 20受)

◆野沢 旭（17回卒、BIKE SHOP MOTORRAD）
脱サラして早や4年になりました。半分趣味でバイクSHOPをやっております。BIKEに乗っていると年を取りません。皆さんもどうぞ。

(H. 1. 9. 30受)

◆小森谷和男（28回卒、BELL JAPAN）
この度、ダイカスト金型の設計事務所を開きました。諸先輩方のお力添えをお願いします。社名はBELL JAPAN ベル ジャパン としました。

(H. 1. 1. 10受)

校 友 短 信

土木工学科

◆安東 弘（3回卒）

過日は総会に参加させて頂きありがとうございました。皆々様のご努力に敬意を表します。現在、東京工業専門学校就職課長をしています。お世話になります。

(H. 1. 5. 1受)

建築学科

◆金子 有英（14回卒、岩手県土木部建築住宅課）

校友会報をいつもありがとうございます。足立先生の計報を知り残念でなりません。小生昭和51年夏、千葉の全国建築審査公長会議でお会いし、叱咤激励されました。先生のご冥福をお祈り致します。（岩手県紫

(H. 1. 5. 2受)

◆細波 文彦（29回卒）

平成元年4月、一級建築士事務所はそなみ設計室を開設致しました。よろしくお願ひ致します。

(H. 1. 5. 22受)

機械工学科

◆齊田 截（14回卒、和光物産株取締役社長）

阿武隈堤の桜が見事に咲き誇っている頃と存じます。

電気工学科

◆鈴木 慶三（17回卒、株中部 技術開発部副長）

平成元年5月に、学生の求人のために、17～18年ぶりには校を訪れました。素晴らしい変貌にただただおどろき、20年前を思い出しました。

(H. 1. 9. 30受)

工業化学科

◆杉原 潤（1回卒）

桑名商事株に工場長として勤務しています。業種はメッキです。よろしくお願ひします。

(H. 1. 10. 24受)

100周年記念に校友会より寄付

日本大学100周年記念事業資金として、日本大学では多くの寄付金を受け付けていますが、工学部校友会では、平成元年度の総会で、350万円を寄付することが認められました。それを受け、平成元年5月15日、校友会代表が、日本大学本部を訪れ、柴田勝治理事長にその資金を手渡しました。

校友会のほかに、工学部の卒業生が個々に寄付した資金の総額は、平成元年7月現在約1,000万円に達しています。しかし目標額は3,500万円です。平成3年10月まで受け付けていますので、引き続きご協力下さいますようお願い致します。



日本大学校友会工科系連絡会

日本大学には、理工系の学部として、理工学部（旧工学部）と、生産工学部（旧工学部工業経営学科）と、工学部（旧第二工学部）の三学部があったが、昭和63年4月に薬学部（旧理工学部薬学科）が独立したために、四学部を擁するに至った。そして薬学科の卒業生らを軸にして「薬学部校友会」も誕生した。

このため、従来から存在していた「日本大学校友会工科系連絡会」の構成メンバーは、三校友会から四校友会に拡大された。この四学部校友会は、明確な要項のもとに、各学部校友会持ち回りで、毎年、連絡会を開催し、共通の場で、種々の問題の認識と解決に当っている。

平成元年度は理工学部の工科校友会が担当して9月7日に行なわれ、2年度は工学部校友会が当番となっている。

なお、日本大学校友会の各県支部の中には工科系校友会があるが、たまたま、平成元年11月、日本大学工科（系）校友会岩手県支部長に、工学部（旧第二工学部）土木工学科第6回卒の板屋欣治氏が選出されました。板屋氏の今後の活躍に期待します。

◇課外活動各部の活躍(平成元年1月～12月) (学生課調べ)

○日本大学体育大会（%～%）	優 勝
△軟式庭球部（於理工学部）	3 位
△バレーボール部（於文理学部）	3 位
△柔道部（於法学部）	3 位
△剣道部（於商学部）	3 位
○第40回東北地区大学総合体育大会（%～%）（於仙台市）	
△ラグビー部 Bブロック	優 勝
△柔道部 個人 86kg以下 田邊潔志	2 位
○全国大会出場	
△空手道部	
糸東会全国大会（%～%）（於日産スポーツプラザ）	
△弓道部	
第37回全日本学生弓道選手権大会	
（%～%）（於日本武道館）	
△柔道部	
第30回全日本理工科学生柔道大会	2 位
（%）（於講道館）	
△日本拳法部	
第2回全国大学選抜選手権大会	ベスト16
（%）（於大田区体育館）	
第14回日本拳法選手権大会	
（%）（於名古屋枇杷島スポーツセンター）	
△ボウリング部	
第27回全日本大学ボウリング選手権大会	
（%～%）（於京都スターレーン）	

〔事務局便り〕

- この校友会報第53号の冒頭は、日本大学創立100周年記念の記事で飾りました。日本大学校友会本部、日本大学広報部、工学部当局などのご尽力をいただきました。ありがとうございました。
- 工学部（学部・大学院・研究所）には現在16人の外国からの留学生がいます。そのうちの3人にメッセージを書いていただきました。
- 「校友会報」は校友会員みんなの財産です。有効に活用されることを願っています。

校友会報 第53号

発行部数 35,000部

発行所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-11
電話番号 (0249)44-1327
振替口座番号 郡山5-1990
発行日 平成2年2月1日
発行者代表 会長 武田仁幸
編集者代表 事務局長 佐藤光正